

障害があると結婚できないの？

～恋愛と結婚・育児～

恋愛や結婚はあきらめなければならない？

障害があることだけで、恋愛や結婚ができないということはもちろんありません。人に好意を抱くことはだれかに命令されたり、制限されるものではないはずで。

ただ、障害があることを相手に話したときにどう思われるだろうか、相手の家族がどう思うだろうか、と考えてしまったり、収入が低い場合に生活そのものへの不安をもってしまったりする人が多いことは事実です。

また、恋愛がうまくいかなくなったとき、精神障害のある人たちはそうした刺激で調子を崩してしまいやすいので、周囲が心配する場合があります。考えてみれば、恋愛や結婚生活がうまくいかなくて落ち込んでしまうのは、だれしも同じことなのですが……。

子どもをもつことや育児はだいじょうぶ？

以前は飲んでいる薬の影響などで、子どもをもつことが難しい場合がありました。最近では影響の少ない薬も開発されてきています。また、女性の

場合、妊娠中や産後に調子を崩す人もいますので、精神状態の管理をしっかり行う必要はあるでしょう。医師とのコミュニケーションが大事です。

育児に関しては、子育て支援がいろいろありますので、身近な人と相談しながら、孤立しないような方法を考えるとよいのではないのでしょうか。周囲の人たちの理解と協力があることは、育児を安定して続けていける大事な要素です。

障害のある人の恋愛や性の問題

ここ10年くらいの間に、障害のある人の恋愛や性の問題がルポルタージュとして刊行されたり、インターネット上で共有されたりする中で、すいぶんオープンに取り上げられるようになりました。中には興味本位や面白半分読んでいる人もいるかもしれませんし、「障害者に性欲があるとは思わなかった」というような反響も耳にします。

日本では、これまで障害者支援の中心的な課題としては、なかなか取り上げられてきませんでした。が、「当たり前な生活」を送るうえで、恋愛や性交渉、そして、結婚や子育ては非常に大きなウエイトを占めています。

勇気が必要なのかもしれません。

自分に対する自信が必要なのかもしれません。

それらを獲得するためには、結婚や出産を当たり前なこととして支援するしくみや、周囲の人たちの理解と協力が必要なのではないのでしょうか。